

## 1. 経営戦略策定の趣旨

公営企業に位置づけられる下水道事業は、料金収入をもって経営を行う独立採算制を基本原則とし、住民生活に身近な下水道サービスを将来にわたり提供する役割を担っています。しかし、現在、下水道サービスの提供に必要な下水処理施設、管路施設等の老朽化に伴う更新投資の増大、人口減少に伴う料金収入の減少等により、経営環境は厳しさを増しつつあります。



十勝川流域下水道浄化センターなどの運営管理を効率的・効果的に行い、将来にわたって安定的に事業を継続できるよう、中長期的な経営の基本計画として下水道事業経営戦略を策定します。

## 2. 計画期間

2019（令和元）年度から2028（令和10）年度まで（10年間）

## 3. 下水道事業の現状

- 下水処理施設（1か所：北海道が建設・保有、組合は管理運営）

十勝川流域下水道浄化センター（運転開始年月：昭和55年1月）

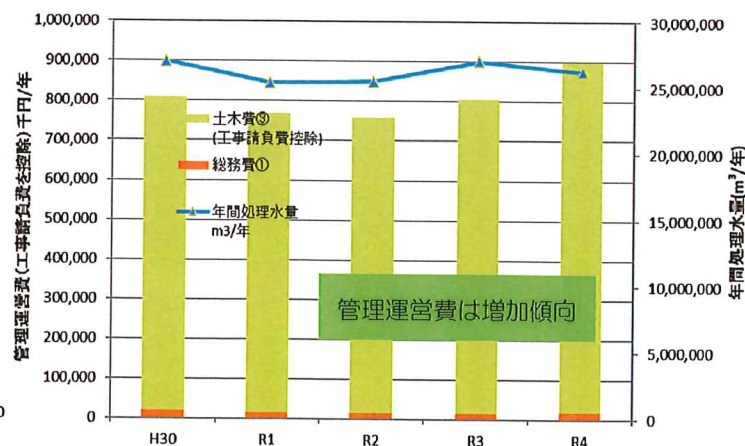
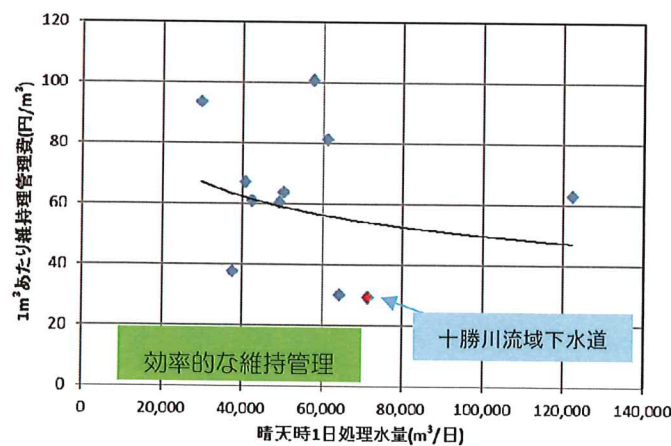
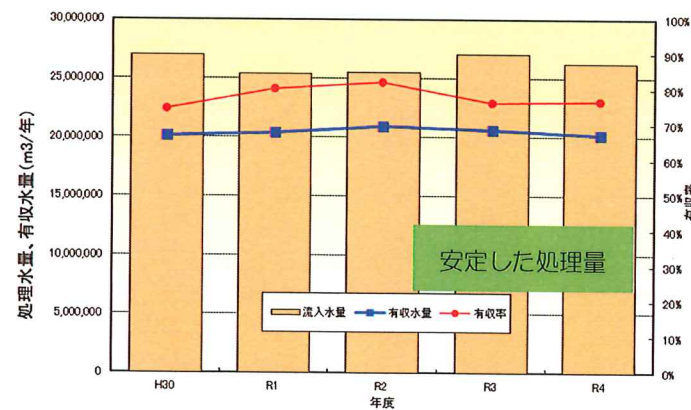
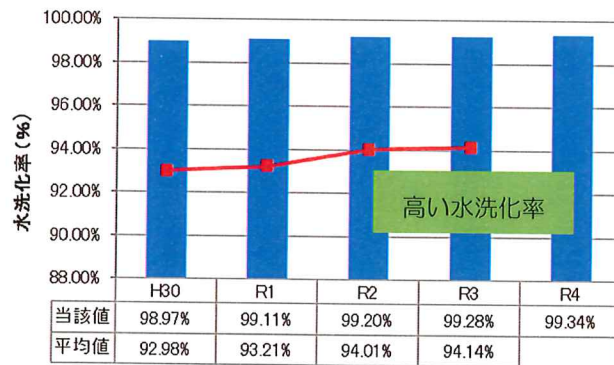
- 汚水処理整備面積：6,005ha 下水道管：流域幹線管路延長 21km

堆肥場（2か所：組合が建設・保有・管理、再生利用組合が運営）

岩内堆肥場（帯広市：建設年度 平成20年度、ストックヤード・臭気抑制・拡散防止施設：平成29～令和2年度）

東和堆肥場（音更町：建設年度 平成25～26年度）

- 経営状況



## 4. 経営の基本方針

施設の供用開始から40年余りが経過し、施設の老朽化も進んでいますが、平成31年3月に北海道が「十勝川流域下水道事業ストックマネジメント計画」を策定の上、計画的に施設更新を行っていることから、組合としてもこうした取組みと連携し、より一層、効率的・効果的に維持管理を行うことが、汚水の安定処理や健全な経営につながるものと考えています。

今後においても、関係構成団体と連携し、汚水の安定処理に取り組むとともに、さらなる維持管理費の削減を図っていきます。

汚水の安定処理、および維持管理の効率化により、維持管理費の削減を目指します。

## 5. 財政・投資計画

- 投資計画

組合が所有する2か所の堆肥場において下水道汚泥の堆肥化を図り、緑農地還元を進めていますが、東和堆肥場については、臭気等の問題から現在は稼働を中止しています。今後は、流域下水道構成団体とともに臭気対策について検討し、より適切な堆肥場の運営のために、必要な投資を行っていきます。

- 財政計画

組合は必要経費を各構成団体からの分担金・負担金のほか、乾燥汚泥処理費等で賄っていることから、今後もこうした財源の確保に努めます。

## 6. 今後の主な考え方・検討予定の取り組み

- 広域化・共同化・最適化に関する事項

今後、構成団体の単独公共下水道を新たに受け入れる水処理統合の動向などを踏まえ、適切な施設の維持管理を行います。

- 投資の平準化に関する事項

これまで堆肥場の建設にあたっては、建設費の平準化に努めており、今後においても投資の平準化に努めます。

- 民間活力の活用に関する事項（PPP/PFIなど）

組合が所有している堆肥場については、すでに民間企業や関係団体が管理運営していることから、新たな民間活用は検討していません。

- その他の取組

今後とも地域住民などに対し、流域下水道の維持管理の状況や経営状況について、ホームページなどを通じて情報公開を行います。

## 7. 経営戦略の進捗管理

本計画期間中に、単独公共下水道との統合など、計画に大幅な変化が生じた場合や中間年の点検を通じて、必要に応じて計画の見直しを行うものとしています。今回の中間点検においては、策定時と比較して、事業の状況に大幅な変化がみられないことから、各データや文言の時点修正を行いました。